

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000089		
法人名	株式会社ユーアンドエヌ		
事業所名	いきいきの家くりもと		
所在地	千葉県香取市高萩765-1		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで緑に囲まれた静かな場所にいきいきの家くりもとはあります。平屋建てで施設内がバリアフリーになっています。
いきいきの家くりもとはでは食事に力を入れており、入居者様の楽しみの1つである食べる事を大事にしています。日々の食事にフリーを取り入居者様と一緒に調理をしたり特別メニューを提供したり、入居者様のリクエストを聞いたり、行事食にもこだわっており、「見て楽しい」「食べて楽しい」をモットーにしています。
入居者様と職員が家族の様に接し、笑顔と笑い声が絶えない施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点①理念—私達は栗源の美しい自然の中で専門的知識と技術、そして何よりも熱い心を持って入居者をそれぞれの個性を尊重しながら家庭的で質の高いケアを提供します。と謳い、自然豊かな場所にある施設の中で、ユマニチュードの技術の習得の為、毎月自己評価を行い研修も継続し、利用者との距離を縮めて寄り添った支援が行なわれ安心・安全な支援に繋がっている。②職員と管理者は何時でも何処でも気楽に話し合う雰囲気醸成されていて、意見を積極的に取り入れる事でやる気に繋がっている。又都合や意向を職員同士でも話し合いの中で調整し、働き易い環境が作られていて、笑顔溢れる職場である。③看取りの経験を2例行い、医師との相談や家族の希望での宿泊等でやり遂げた。家族からの感謝の言葉を頂き、仕事の重要性を認識し、やる気・誇りに繋がっている。経験した事例を下に課題・改善点などを事例検討会で職員と共有し、スキルの習得と家族の要望に添うよう、前向きに取り組んでいる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、職員の目が届く様にしてあります。出来るだけ、理念の沿って取り組める様努力しています。	理念(表題参照)のためユマニチュードの介護技術を毎月自己評価し、年2回研修を行なって研鑽を積んでいる。利用者との信頼関係構築で距離感も近づき支援がし易くなっている。「夢プラン」の仕組みから農場へ行くなど希望を叶え、利用者の喜びに繋げている。	理念に掲げる志をもっと広げて、施設が向上する為に、職員と話し合い、行動基準として毎年標語を決め、理念実践に繋げる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの流行によりなかなか地域との交流が少なくなりましたが、最近は落ち着いてきているので、地域の行事に参加出来るよう区長さんをお願いをしている。近所の神社に初詣に行ったり、床屋へ行っている。	区長には運営推進会議に参加して頂く事で祭りへの参加の誘いや、地域の方から野菜・花などの差し入れ、施設外へ出て行こうとする人への注意の情報など関係が良い。インスタの発信で若い人の入職や、家族をこの施設に入れたと思う職員が多数いる等、地域に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動などに参加した時や運営推進会議などで話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議を再開しました。ご家族様等からの意見があった場合は施設内で検討しサービス向上に繋げている。	偶数月に運営推進会議が開催され、市の担当者・区長・民政委員・家族が参加し2ヶ月間の出来事や行事、防災訓練などを報告して、参加者から意見を頂いている。自宅への宿泊外出等、意見から実践した事例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や年に数回あるグループホーム香取市連絡会議でコミュニケーションを取っている。また、電話やメールでも連絡をとる事があります。	市の担当者とは会議に参加して意見を頂き、分らない事や介護保険の改定についての指導を受けていて、マイナンバー保険証について細かく説明・指導受ける等関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げている為、身体拘束は行いません。拘束が必要なレベルの方がいらっしゃっても、どうしても拘束をしないでケア出来るかミーティングなど行い共有している。	虐待・身体拘束についてユーチューブを見ながら事例を取り上げて検討会を実施している。玄関のセンサーで外出しそうな利用者には一緒に気の済むまで外出に付き合う等拘束にならない支援が行なわれている。虐待の芽のアンケートを年4回実施して職員の意識の向上に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽のアンケートを年に4回行ったり、内出血等あった場合はスキントラブルを提出してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに行き制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は必ず説明をし、不明な点がないか聞いている。また、改定等あった場合は文章でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口がある事を説明している。また、玄関にご意見BOXを設置している。ご家族様から頂いたご意見は検討出来るだけ沿える様にしている。	契約時、苦情窓口がある事を説明し、玄関には意見ボックスを設置して意見が何時でも言い出せる仕組みを構築している。来訪時には利用者の意向や趣味、やりたい事などを雑談の中から取り上げ、編み物がしたい利用者に勧めて行なうようになった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員は意見を言える環境である。また、意見に対しては出来るだけ取り入れ、1度は試してみるようにしている。	職員同士、管理者との話し合い等何時でも、どんな事についても気楽に話せる職場風土が醸成されている。提案について海辺にある千人画廊への見学を実施する等工夫をし、皆の協力で行なった。職員からの意見を大切にし取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件に関しては出来るだけ要望を聞いている。また、やりがいを感ぜられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マナビタを利用したり研修は必要に応じて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で開催される会議に参加したり、勉強会などには積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には見学を行って頂いたり、出来るだけご本人と面談させて頂き、困り事や要望を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時にご家族様から不安などを聞き出来るだけ要望に沿えるようにしている。また、面会時や電話等でご本人の様子をお話する事もあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、検討しご家族様に相談等し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との距離がとても近く、家族の様に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも協力して頂き一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話でのやり取りを行っている。コロナやインフルエンザが落ち着かない為、なかなかご家族との外出や外泊などは行えていない。面会はその時に合わせて行っている。	コロナ禍が落ち着きつつある今、WEBを使って海外に居る家族との会話を継続して繋がりを維持している家族もいる。住み慣れた地元の神社への初詣や、自宅への宿泊などで関係が継続するよう支援が行なわれている。毎月、施設での笑顔ある写真を送って喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を検討したり、職員が間に入り会話やレクが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談があれば必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望・意向に沿える様に対応している。また、個々合わせあた介護を心掛けている。	入居時、家族からの利用者の事柄を細かく聞き取りフェースシートに記録しユニットに備え付けている。入所後で気付いた事は書き加え、より広く理解出来るような仕組みがある。今年の初めに、書き初めをしてやりたい事のヒントにして支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・ご家族・入居前の担当ケアマネジャー等に伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせており、変化があった場合は柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に要望を伺い、検討出来る事から行っている。計画書は作成後、ご家族に了承を得ている。	利用者・家族の意向を聞き、医師の意見は家族と相談し、栄養補助食品を加える等の変更を行なった。カンファレンスでは居室担当者の意見を聞いて話し合い、ケアマネがプランを作成している。家族の訪問時に説明し、来れない家族には郵送して周知している。3ヶ月乃至6ヶ月の目標についてモニタリングを行い変化には見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、大事な事に関しては業務日誌にも記録している。また、申し送りノートも活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて何が1番良いか考え、出た意見や支援方法を実践し検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの流行によりなかなか地域との交流が少なくなってしまった。区の区長さん等に話をして交流の機会を増やして頂ける様お願いをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を伺っています。往診対応も行っている為、ご家族の希望に沿っています。現在は18名全員往診対応で、お看取りまでさせて頂いています。急変時等も医師・看護師が24時間365日対応です。	入居時に医療受診について説明し、かかりつけ医の継続受診の支援、提携病院から月2回の往診と毎週1回の訪問看護師による健康管理と助言が継続されている。訪問薬局とも相談できる体制があり、急変時には24時間オンコールで医療機関との連携が図られる。家族へも随時報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事や心配事は訪問看護時に相談しています。また、急な体調不良等には24時間看護師に相談する事ができ、看護師の判断で往診に繋げて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、入院先に経過を伺う為に訪問・電話をしたり、ご家族にも連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面で説明し同意を取っている。また、お看取りに関しても説明を行っている。重度化や終末期になった場合はその方に合わせたマニュアルを作成し、支援に取り組んでいる。また、ご家族にも協力して頂く場合もあります。	終末期にはドクターと情報を共有の下、その方個人に合ったマニュアル(タイムスケジュール・食事・服薬・排泄等)を作成し、全職員共通認識の下で一貫した支援体制をとっている。ご家族の意向も反映し、いつでも面会できる体制も整えており感謝されている。看取り後は事例検討会にて振り返りを行い、職員の研修と今後の支援に活かしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応している。何かあれば訪問看護師に相談し手当や対応を聞き実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行ったり、マニュアルを作成している。地域の方には区長さんを通して協力をお願いしている。	火災や災害を想定した年2回の防災訓練の実施とコロナ期間での経験を下に備蓄品の確保と点検を定期的に行っている。特に感染症に関しては質・量ともに十分な備蓄体制を整えている。更なる防災管理体制作りのため現在はBCPのマニュアルを作成中であり、地域住民との連携も強化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを取り入れ対応している。また、個々に合わせた声掛けを行っている。	ユマニチュード研修が開始されてから6年が経過し研修内容も充実してきている。毎月の個人別振り返りシートの活用や年3～4回の研修指導の継続により、利用者への接し方、日常行動、支援技術の向上が図られている。仕事への自信や誇りがモチベーションとなり、アンケートにも元気・笑顔が多い施設との評価が多くあった。	投げかける言葉遣いを「～されますか？」という疑問形で行なう事で、利用者の意思を尊重し、尊厳に寄り添う言葉遣いとなるの考えから、研修を行い施設の風土となる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人に希望を聞き、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ個々のペースに合わせて支援しているが、場合によってはこちらの予定で動いてもらう事もあります。(行事等など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は選んでもらうが、出来ない方は洋服を見て頂き、これで良いか伺っている。まら、女性はお化粧品やマニキュアを行いおしゃれする機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には力を入れており、希望を聞いたりフリーを作り提供している。また、入居者様にお手伝いを頂く事もあります。	食べたい物が食べられる「フリー」や毎月実施されている「イベント食」(誕生日会での手作りケーキ・ハロウィン・屋台・居酒屋等)職員のアイディアにより食事が楽しみになる工夫がなされている。利用者には飾りつけや皮むき、洗い物等できることを手伝ってもらい個人に合わせた食事形態の工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が少ない方はご家族の了承を得て高カロリーのものや好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。また、歯科も月1回往診に来ているので、口の中のトラブルがある場合はご家族に相談し受診している。		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で管理している。また、出来るだけトイレで排泄を行える様支援している。	排泄チェック表から各自のリズムを把握して時間や仕草を見て声掛けをして排泄を支援している。拒否する人には無理強いせず人や時間を変えたり、夜はオムツでも昼間はリハパンにしたり、オムツの種類を変更することで夜間の排泄回数を減少させる等利用者に合わせて対応で改善を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取して頂いたり、運動・腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望を伺っているが、希望通りにならない事もあります。	入浴剤等で利用者が楽しみになる工夫をし、利用者の意向を確認して入浴している。入浴できない場合は衣服の交換、清拭や足浴を行っている。浴室や脱衣所の暖房等ヒートショック対策や入浴時のバイタルチェック、スキントラブルの確認、入浴後の全身保湿剤の塗布等安全や健康管理にも十分配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度管理や飾りつけに気を付けて行っている。シーツを洗う・布団干し・布団乾燥等も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状で確認したり在宅薬剤師が週に1度来所する為、聞く事ができる。また、何かあった場合でも電話で対応して頂いてる。内服時は職員、ダブルチェックを行ってから内服介助を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来る事は行って頂き、編み物等趣味のある方は自宅から持って頂き職員と行っている。また、隣のユニットへ行き会話を楽しむ事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩など行っています。また、ドライブで遠くまで出かけたいたりします。要望を聞いて出かける時もあります。	コロナやインフルエンザ等感染予防に十分配慮し、本人の希望、体調や体力、天候等を勘案して近所での散歩や行きたい場所へのドライブ等職員が手分けして個別に外出支援が行われている。ご家族への報連相により協力も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う事はないが、必要な物や食べたい物があればご家族に了解を得て購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使う事も可能です。また、手紙を出したり、年賀状が親族の方から来たりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさ、TVの音量などに配慮している。また、壁には季節の制作物や写真などを掲示し、みなさが見れるようにしています。	大きな窓からいっぱいの日差しが明るく、ゆったりとした雰囲気のある共有空間となっている。訪問時は利用者と職員が協力して作成した節分の鬼のオブジェ、家族への写真撮影が行えるフオトスポット等の設置があった。また、廊下での歩行や輪投げ、YouTubeでの健康体操、懐かしい映画やドラマの視聴等運動と娯楽を組み合わせ利用者が楽しんで生活できる環境づくりが工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室なので、お部屋で過ごしたりリビングで過ごしたりと入居者が自由に過ごす事が出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ってきて頂く事も可能です。また、写真を掲示したり工夫をしています。	家具や荷物の配置を工夫し、つまづきや転倒防止等に配慮した導線を確保している。温度・湿度管理を心がけ、のどの弱い人には家族に依頼して加湿器も設置して配慮している。脱臭剤の設置により匂いへの配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっており、常に目が届く様になっています。職員がお手伝いしながら自立した生活が送れる様支援しています。		

目標達成計画

作成日：令和 6 年 2 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	毎月ユマニチュードのアンケートを行っているが、集計を出した後グラフにし貼りだしているだけで、ミーティング等行っていない。	アンケート結果を職員にフィードバックし次回には改善出来るようにする。	アンケートを元にミーティングの機会を設ける。	6ヶ月
2	10	ケアプランの実施状況を記録に残せていない。	ケアプランの実施状況を記録に残しアセスメント会議に活かす。	個人記録または用紙を作成しケアプランの実施状況を記録する。	6ヶ月
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。